

〈博士後期課程〉

専門（共通）

問題 1 次の各設問に答えなさい。

1. 研究論文のクリティークについて次の問いに答えなさい。

1) 研究論文のクリティークとは何か、説明しなさい。(配点 6 点)

2) 研究論文のクリティークをする際に必要とされる能力は何か? () 内に入る適切な語を解答欄に記入しなさい。(配点 3 点)

クリティカル・()

2. レビューに関する次の文章の () に入る適切な語をそれぞれ解答欄に記入しなさい。

現状のエビデンスの調査結果を要約し提供するレビューのことを(A)レビューといい、エビデンスギャップを特定し、科学的に未解決の領域やテーマを網羅的な情報収集を通じて明らかにするレビューのことを(B)レビューという。(配点 6 点)

3. 上記設問の B のレビューについて、その方法論の透明性を高めるために 2018 年に提唱された報告ガイドラインの名称を答えなさい。(配点 5 点)

4. 次の研究法について説明しなさい。

1) 症例対照研究 (配点 6 点)

2) 実装研究 (配点 9 点)

問題 2 下記の文章を読み、設問に答えなさい。

あなたは看護系大学の教員であり、基礎看護学実習において実習指導を担っている。実習の第 1 週目、学生 A（女性・20 歳）は代謝内科病棟に配属された。学生 A は実習初日から強い緊張が見られ、指導者の問いかけに対しても控えめな反応しか示さなかった。病棟の雰囲気や業務の流れに圧倒されている様子も見受けられ、行動の一つひとつに迷いや戸惑いがある。担当患者とのコミュニケーションはぎこちなく、声かけは小さく、表情にも硬さが残っており、笑顔を見せる場面は少ない。患者の訴えに耳を傾けながらも、どう対応してよいか分からず、沈黙が続く場面もあった。実習 2 日目の記録には、「うまく声をかけられなかった」「患者さんを不快にさせてしまったかもしれない」との自己評価が書かれており、自分の関わり方に対する自信のなさがにじみ出ていた。観察の視点は限定的で、患者の全身状態を包括的に捉える視点に乏しい。バイタルサインのわずかな変化にも気づくのが遅れ、記録の内容にも浅さが見られた。ケアの場面でも不安そうな表情が目立ち、手技に入る前に何度も確認を行うなど、極度に慎重な姿勢が続いている。

また、学生 A は同じグループの学生 B（男性・22 歳）と自分を比較している様子がある。学生 B は患者に積極的に話しかけ、受け持ち患者とも早い段階で信頼関係を築いており、指導者からの問いかけにも自信を持って応答している。ケアの実施にも迷いがなく、教員や実習指導者からのフィードバックに対しても建設的に受け止め、次の行動に活かしている。グループ学習後の振り返りでは、学生 A は「自分だけができていない気がして焦ってしまう」「どうせうまくできなと感じてしまう」と語り、涙を浮かべた。表情や言葉には、周囲との比較による焦燥感や、自分に対する否定的な感情が強く表れていた。実習を通じて成長したいという思いはあるものの、それ以上に「失敗してはいけない」という不安が強く、前向きな行動につながりにくい状況である。

1. このような学生 A の学習状況に対して、看護教育者としてどのような支援や指導が適切であるか。理論等を踏まえながら、具体的かつ論理的に述べなさい。（配点 20 点）

問題 3

1. 看護教育におけるアクティブ・ラーニングの特徴として正しいものを 2 つ選びなさい。（配点 2 点）
 - a. 学生が主体的に学習課題に取り組む
 - b. 学生は教員の話を一方向的に聞くことで理解を深める
 - c. グループワークはアクティブ・ラーニングに含まれない
 - d. 学生間の対話や協働を通して学びを深める
 - e. 試験の点数のみで学習成果を測定することが基本である
2. 看護教育における ICT 活用の利点として正しいものを 2 つ選びなさい。（配点 2 点）
 - a. 教員の授業準備が不要になる
 - b. 遠隔地の学生とも学びを共有できる
 - c. 評価に使うことはできない
 - d. 学生の主体的学習を妨げる傾向がある
 - e. 学習履歴の可視化によって学習支援がしやすくなる

問題 4 次の各設問に答えなさい。

1. 「人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針」における「仮名加工情報」とはどのような情報か、説明しなさい。(配点 6 点)

2. 次の研究例で倫理的に特に注意すべき点について、記載しなさい。(配点 15 点)

研究例：大学に所属する研究者 A は、長期入院する 3～5 歳の子どもを対象に、治療を受けながらも子どもにとって重要な遊びの機会を得るために、子どもが看護師に期待することについて、インタビュー調査を行って明らかにすることにした。研究対象者となる子どもについては、研究協力機関である B 病院の小児病棟に長期入院する子どもを紹介してもらうことにした。

問題 5 下記の事例を読み、各設問に答えなさい。

事例

A 看護師（卒後 6 年目・内科病棟勤務）が、日勤帯で受け持った B さん（70 代・男性）は、肺炎治療のために 5 日前に入院し、現在も酸素療法を継続中で、ベッド上安静が必要な状況である。B さんの昨日のバイタルサインは、血圧 126/76mmHg、脈拍 72 回/分、SpO₂ 97～98% であった。

午前中に A 看護師が B さんへのケアを行っている際、B さんは、胸をさすりながら「なんとなく胸が苦しいような気がする……。けれど、まあ大丈夫かな」と話した。その時のバイタルサインは、血圧 130/78mmHg、脈拍数 76 回/分、SpO₂ 94～95% であった。A 看護師は、少し気になりながらも「急を要するほどではなさそうなので、様子をみよう」と判断した。

昼休憩前、A 看護師は、B さんの様子について、念のためリーダーナースに伝えておこうと考えた。しかしその時、リーダーナースは師長・主任と勤務調整の話をしていたため、A 看護師はその会話に割り込むことをためらい「急ぎではないし、報告は休憩後でよいだろう」と考えて、そのまま報告せず休憩に入ることにした。

休憩を終えて、病棟に戻った A 看護師は、リーダーナースより『B さんからナースコールがあり急な呼吸困難を訴えてきたこと、看護師が訪室したときには SpO₂ が 80% に低下し、頻呼吸・頻脈・意識レベルの低下を来していたため、現在、医師による緊急対応中であること』を知らされた。その後、B さんは肺塞栓症の疑いで集中治療室に転室となった。

1. この事例における医療安全上の問題点について分析しなさい。(配点 12 点)

2. あなたが行った分析内容をふまえ、この事例における再発防止策について具体的に述べなさい。(配点 8 点)